

- 高村明孝、武田雅俊、精神科における広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度 (PARS) の有用性についての予備的検討、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 36) 高橋秀俊、岩瀬真生、レオニデスカヌエト、安田由華、大井一高、福本素由己、井池直美、池澤浩二、疇地道代、栗本龍、中鉢貴行、石井良平、吉田哲彦、数井裕光、橋本亮太、武田雅俊、Prepulse Inhibition と Schizotypal Personality との関連について、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 37) 大井一高、橋本亮太、安田由華、井池直美、高橋秀俊、森原剛史、石井良平、田上真次、岩瀬真生、大河内正康、紙野晃人、数井裕光、田中稔久、工藤喬、武田雅俊、TBP 遺伝子における CAG リピート長と統合失調症発症のリスクおよび前頭葉機能との関連、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 38) 橋本亮太、大井一高、須貝文宣、安田由華、田上真次、高村明孝、森原剛史、大河内正康、田中稔久、工藤喬、佐古田三郎、武田雅俊、精神障害に続発した遺伝性脊髄小脳変性症の 2 例、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 39) 中山泰亮、大河内正康、田上真次、児玉高志、柳田寛太、辰巳真一、森康治、谷向仁、橋本亮太、森原剛史、田中稔久、工藤喬、武田雅俊、Wnt シグナル経路に関与する新規 presenilin 様タンパク質の探索、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 40) 辰巳真一、大河内正康、田上真次、柳田寛太、中山泰亮、児玉高志、森康治、田中稔久、橋本亮太、森原剛史、谷向仁、工藤喬、武田雅俊、培養細胞における膜貫通型 NRG1 の段階的タンパク分解によって産生される A $\beta$  様ペプチドの同定、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 41) 児玉高志、大河内正康、田上真次、中山泰亮、柳田寛太、辰巳真一、森康治、谷向仁、橋本亮太、森原剛史、田中稔久、工藤喬、武田雅俊、LC/MS/MS を用いた脳脊髄液及び末梢血中の APL1 $\beta$  の同定と定量、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 42) 柳田寛太、大河内正康、田上真次、中山泰亮、児玉高志、西富晃平、姜経緯、森康治、辰巳真一、数井裕光、田中稔久、森原剛史、橋本亮太、工藤喬、武田雅俊、APLP1 由来の A $\beta$  様ペプチド APL1 $\beta$ 28 は中枢神経における A $\beta$ 42 産生の代替マーカーである、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 43) 岩瀬真生、疇地道代、池澤浩二、石井良平、高橋秀俊、中鉢貴行、レオニデスカヌエト、栗本龍、数井裕光、福本素由己、井池直美、大井一高、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、近赤外分光法による組織酸化指標を用いた統合失調症の前頭低活性の検討、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 44) 高村明孝、橋本亮太、大井一高、安田由華、福本素由己、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、山森英長、紙野晃人、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、AKT1 遺伝子多型と注意機能の関連、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 45) 疇地道代、岩瀬真生、池澤浩二、レオニデスカヌエト、高橋秀俊、中鉢貴行、石井良平、高村明孝、井池直美、福本素由己、大井一高、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、NIRS を用いた大うつ病性障害の前頭葉機能と局所脳血流量変化の検討、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(11.1), 2009.
- 46) 池澤浩二、石井良平、岩瀬真生、栗本龍、カヌエトレオニデス、高橋秀俊、中鉢貴行、疇地道代、大井一高、福本素由己、高村明孝、安田由華、井池直美、高屋雅彦、数井裕光、橋本亮太、吉峰俊樹、武田雅俊、統合失調症患者の作業記憶課題時における脳磁場活動変化に関する検討、第 39 回日本臨床神経生理学会学術大会、北九州、11.18-20(19), 2009.
- 47) 岩瀬真生、疇地道代、池澤浩二、石井良平、高橋秀俊、中鉢貴行、カヌエトレオニデス、栗本龍、数井裕光、福本素由己、井池直美、大井一高、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、

- 2 ch-NIRS による前頭葉課題施行中の酸化ヘモグロビン濃度の賦活曲線特性- 統合失調症と健常者の比較、第 39 回日本臨床神経生理学学会学術大会、北九州、11.18-20(18), 2009.
- 48) Hashimoto R, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Takamura H, Yamamori H, Takahashi H, Takao K, Miyakawa T, Ishii R, Iwase M, Kazui H, Takeda M. New approach to elucidate human brain function and its molecular basis: Human Brain Phenotype Consortium, 第 32 回日本神経科学大会、名古屋、9.16-18, 2009.
- 49) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Takahashi H, Iike N, Iwase M, Kamino K, Kazui H, Takamura H, Fukumoto M, Yamamori H, Yamada K, Numata S, Ikeda M, Kudo T, Ueno S, Yoshikawa T, Ohmori T, Iwata N, Ozaki N, Takeda M. Promoter variant in the Chitinase 3-like 1 gene is associated with risk for schizophrenia and personality trait, 第 32 回日本神経科学大会、名古屋、9.16-18(16), 2009.
- 50) Takamura H, Hashimoto R, Shintani N, Haba R, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Yamamori H, Hashimoto H, Baba A, Takeda M. Behavioral analysis of transgenic mouse overexpressing dysbindin-1, a susceptibility gene for schizophrenia, 第 32 回日本神経科学大会、名古屋、9.16-18(16), 2009.
- 51) Iwase M, Azechi M, Ikezawa K, Ishii R, Leonides C, Kurimoto R, Takahashi H, Nakahachi T, Kazui H, Fukumoto M, Iike N, Ohi K, Yasuda Y, Hashimoto R, Takeda M. Hypofrontality in schizophrenia detected by the measurement of tissue oxygenation index using NIRS, 第 32 回日本神経科学大会、名古屋、9.16-18(18), 2009.
- 52) Hashimoto R, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Takamura H, Yamamori H, Takahashi H, Takao K, Miyakawa T, Ishii R, Iwase M, Kazui H, Takeda M. New approach to elucidate human brain function and its molecular basis: Human Brain Phenotype Consortium. 第 4 回 MCCS-Asia シンポジウム、名古屋、9.15, 2009.
- 53) 橋本亮太、森本一成、座長、The 4<sup>th</sup> meeting “Consider the Ability of Discharged Patients”、大阪、9.9, 2009.
- 54) 橋本亮太、統合失調症の遺伝子解析研究の現状と展望、平成 21 年度第 2 回(社)大阪精神科診療所協会学術研究会、9.5, 2009.
- 55) 橋本亮太、安田由華、大井一高、福本素由己、高村明孝、山森英長、高橋秀俊、高雄啓三、宮川剛、岩瀬真生、石井良平、数井裕光、武田雅俊、ヒトにおける脳表現型の分子機構の解明: ヒト脳表現型コンソーシアムについて、統合脳 5 領域「平成 21 年度 夏の合同班会議」、札幌、8.9-12(10), 2009.
- 56) 宮田信吾、橋本亮太、嶽本香菜、吉川景子、遠山正彌、精神疾患発症機構への micro RNA の関与、日本自立神経学会総会、和歌山、11.5-6(5), 2009.
- 57) 児玉高志、大河内正康、田上真次、柳田寛太、中山泰亮、辰巳真一、森康治、谷向仁、橋本亮太、森原剛史、田中稔久、工藤喬、武田雅俊、微量脳内ペプチドリフトの作成、第 28 回日本認知症学会学術集会 11、仙台、11.20-21(20), 2009.
- 58) 辰巳真一、大河内正康、田上真次、Willem Michael, Munich Deu、柳田寛太、中山泰亮、児玉高志、森康治、Fleck Daniel、田中稔久、橋本亮太、森原剛史、谷向仁、工藤喬、武田雅俊、プレセニン/γ セクレターゼによるニューレグリン-1 の蛋白質分解の解析、第 28 回日本認知症学会学術集会、仙台、11.20-21(20), 2009.
- 59) 橋本亮太、安田由華、大井一高、福本素由己、高橋秀俊、高村明孝、山森英長、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、阪大病院神経科・精神科における「統合失調症専門外来」について、第 6 回大阪南部精神科症例検討会、大阪、7.30, 2009.
- 60) 中島淑貴、橋本亮太、武田雅俊、三十五年目に病識の出現した統合失調症の一例、第 105 回近畿精神神経学会、大阪、7.18, 2009.
- 61) 橋本亮太、安田由華、大井一高、福本素由己、高橋秀俊、高村明孝、山森英長、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、阪大病院神

- 経科・精神科における「統合失調症専門外来」について、第6回大阪中央精神科症例検討会、大阪、7.8, 2009.
- 62) 宮田信吾、橋本亮太、遠山正彌、遠山正彌、micro RNAによる神経細胞成熟化機構の解析、第11回RNAミーティング(第11回日本RNA学会年会)、新潟、7.27-29(27), 2009.
- 63) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Takamura H, Yamamori H, Takeda M, シンポジウム：精神・神経・筋疾患のトランスレーショナルリサーチ、「統合失調症とディスバインジン」、第52回日本神経化学学会大会、伊香保、6.22-24(24), 2009.
- 64) 橋本亮太、辻省次、座長、シンポジウム：精神・神経・筋疾患のトランスレーショナルリサーチ、第52回日本神経化学学会大会、伊香保、6.22-24(24), 2009.
- 65) 橋本亮太、安田由華、大井一高、福本素己、高村明孝、高橋秀俊、山森英長、武田雅俊、日本生物精神医学会合同シンポジウム：中間表現型を用いた精神疾患脆弱性遺伝子の同定、第52回日本神経化学学会大会、伊香保、6.22-24(23), 2009.
- 66) Yasuda Y, Hashimoto R, Ohi K, Takamura H, Fukumoto M, Takahashi, Yoshida T, Iike N, Yamamori H, Morihara T, Tagami S, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Kamino K, Ishii R, Iwase M, Kazui H, Takeda M. A genetic variation of the KIBRA gene is associated with memory performance in Japanese healthy subjects. 第52回日本神経化学学会(伊香保)大会、第52回日本神経化学学会大会、伊香保、6.22-24(23), 2009.
- 67) 橋本亮太、安田由華、西村章、山森英長、大井一高、福本素由己、高村明孝、高橋秀俊、毛利育子、伊藤彰、谷池雅子、松本直通、武田雅俊、広汎性発達障害の遺伝子研究の到達点、日本脳科学会、06.12-13(13), 2009.
- 68) 安田由華、橋本亮太、大井一高、高村明孝、福本素己、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、山森英長、紙野晃人、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、Kibra 遺伝子の遺伝子多型と日本人における記憶の関連について、日本脳科学会、06.12-13(13), 2009.
- 69) 池澤浩二、石井良平、栗本龍、Leonides Canuet、岩瀬真生、高橋秀俊、中鉢貴行、疇地道代、大井一高、福本素由己、高村明孝、安田由華、高屋雅彦、数井裕光、橋本亮太、吉峰俊樹、武田雅俊、統合失調症の安静開閉眼時における律動脳磁場活動変化の検討、第24回日本生体磁気学会、金沢、5.28-29(28), 2009.
- 70) 匹田貴夫、田谷真一郎、藤野泰孝、橋本亮太、貝淵弘三、統合失調症関連蛋白質 dysbindin の新規結合パートナーのプロテオーム解析による解明(Proteomic analysis reveals novel binding partners of dysbindin, a schizophrenia-related protein)(英語)(会議録)、第61回日本細胞生物学会大会、名古屋、6.2-4(2), 2009.
- 71) 橋本亮太、安田由華、西村章、山森英長、大井一高、福本素由己、高村明孝、高橋秀俊、毛利育子、伊藤彰、谷池雅子、松本直通、武田雅俊、シンポジウム：広汎性発達障害の遺伝子研究はどこまで到達したか?、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25(23), 2009.
- 72) 橋本亮太、糸原重美、座長、一般口演「動物モデル」、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25(23), 2009.
- 73) 橋本亮太、高雄啓三、服部聡子、室谷知孝、遠山桂子、中西和男、松崎伸介、石塚智子、熊本奈都子、高村明孝、大井一高、福本素由己、山森英長、安田由華、遠山正彌、大和谷厚、功刀浩、宮川剛、武田雅俊、統合失調症脆弱性遺伝子ディスバインジンと記憶との関連：ヒトと動物モデルの表現型の検討、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25, 2009.
- 74) 大井一高、橋本亮太、安田由華、高村明孝、福本素由己、山森英長、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、岩瀬真生、紙野晃人、石井良平、数井裕光、疇地道代、池澤浩二、谷向仁、田上真次、森原剛史、大河内正康、沼田周助、池田匡志、上野修一、田中稔久、工藤喬、大森哲郎、岩田伸生、尾崎紀夫、武田雅俊、CHI3L1 遺伝子プロモーター領域多型と統合失調症のリスク及び性格傾向の関連、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25(24), 2009.
- 75) 福本素由己、橋本亮太、安田由華、大井一高、高橋秀俊、山森英長、高村明孝、井池直美、畦地道代、池澤浩二、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、統合失調症における

- Remissionの研究、第31回日本生物学的精神神経学会、京都、4.23-25(24), 2009.
- 76) 安田由華、橋本亮太、大井一高、高村明孝、福本素由己、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、山森英長、紙野晃人、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、KIBRA 遺伝子の遺伝子多型と日本人統合失調症患者における記憶の関連について、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25(24), 2009.
- 77) 畦地道代、岩瀬真生、池澤浩二、Canuet Leonides、栗本龍、高橋秀俊、中鉢貴行、石井良平、井池直美、福本素由己、大井一高、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、NIRS を用いた大うつ病性障害の前頭葉機能と局所脳血流変化の検討、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25(24), 2009.
- 78) 橋本亮太、安田由華、武田雅俊、子どもの『精神障害』への支援、大阪府学校保健会養護教諭部会講演会、大阪、3.5, 2009.
- 79) 池澤浩二、石井良平、栗本龍、Leonides Canuet、岩瀬真生、高橋秀俊、中鉢貴行、疇地道代、大井一高、福本素由己、高村明孝、安田由華、吉田哲彦、高屋雅彦、数井裕光、橋本亮太、吉峰俊樹、武田雅俊、統合失調症患者の安静開閉眼時における律動脳磁場活動変化の検討、第31回 Fm $\theta$  研究会、大阪、2.28, 2009.
- 80) 木村宏明、橋本亮太、武田雅俊、アリピプラゾールが有効であった難治性統合失調症の一例、第104回近畿精神神経学会、大阪、2.14, 2009.
- 81) 欠田恭輔、安田由華、橋本亮太、福本素由己、武田雅俊、神経性食思不振症様の症状を呈した統合失調症の一例、第104回近畿精神神経学会、大阪、2.14, 2009.
- 82) 橋本亮太、安田由華、大井一高、吉田哲彦、福本素由己、高村明孝、高橋秀俊、井池直美、工藤喬、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、シンポジウム：統合失調症の未病と予防「統合失調症未病と広汎性発達障害との類似点と相違点」、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 83) 岩瀬真生、石井良平、高橋秀俊、疇地道代、池澤浩二、Canuet Leonides、栗本龍、中鉢貴行、橋本亮太、安田由華、数井裕光、武田雅俊、シンポジウム：統合失調症の軽症化「生理的マーカーによる軽症化の検出は可能か？」日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 84) 数井裕光、木藤友実子、高屋雅彦、徳永博正、安田由華、橋本亮太、岩瀬真生、石井良平、森原剛史、田上真次、田中稔久、工藤喬、武田雅俊、シンポジウム：高齢化する統合失調症への対応「高齢統合失調症と認知症—認知機能障害の観点からの鑑別—」、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 85) 大井一高、橋本亮太、安田由華、高村明孝、高橋秀俊、岩瀬真生、紙野晃人、数井裕光、沼田周助、上野修一、岩田仲生、尾崎紀夫、武田雅俊、CHI3L1 遺伝子プロモーター領域多型と統合失調症のリスク及び性格傾向の関連、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 86) 福本素由己、橋本亮太、安田由華、大井一高、高橋秀俊、山森英長、高村明孝、井池直美、畦地道代、池澤浩二、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、統合失調症における Remission の研究、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 87) 池澤浩二、石井良平、栗本龍、Canuet Leonides、岩瀬真生、高橋秀俊、中鉢貴行、疇地道代、高屋雅彦、数井裕光、橋本亮太、吉峰俊樹、武田雅俊、統合失調症患者における安静開閉眼時の律動脳磁場活動の変化に関する検討、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 88) 高橋秀俊、岩瀬真生、レオニデスカヌエト、安田由華、大井一高、福本素由己、井池直美、池澤浩二、疇地道代、栗本龍、中鉢貴行、石井良平、吉田哲彦、数井裕光、橋本亮太、武田雅俊、健常者における聴覚性驚愕反射の Prepulse Inhibition と Schizotypal Personality との関連について、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 89) 長谷川千洋、吉田哲彦、橋本亮太、井池直美、喜多村由里、岩瀬真生、数井裕光、博野信次、山鳥重、武田雅俊、WMS-R 論理記憶課題における統合失調症の文章記憶の検討、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.

- 2009.
- 90) 疇地道代、岩瀬真生、池澤浩二、Canuet Leonides、栗本龍、高橋秀俊、中鉢貴行、石井良平、福本素由己、井池直美、大井一高、安田由華、数井裕光、橋本亮太、武田雅俊、近赤外線スペクトロスコープ (NIRS) を用いた統合失調症患者と健常対象者との正判別率、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 91) 池澤浩二、岩瀬真生、疇地道代、石井良平、大井一高、安田由華、井池直美、栗本龍、Canuet Leonides、高橋秀俊、中鉢貴行、橋本亮太、武田雅俊、近赤外線スペクトロスコープを用いた統合失調症患者における前頭葉機能障害と局所脳血液量変化の検討、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 92) 岩瀬真生、疇地道代、池澤浩二、石井良平、Canuet Leonides、栗本龍、高橋秀俊、中鉢貴行、数井裕光、福本素由己、井池直美、大井一高、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、NIRSによる組織酸素化指標を用いた統合失調症の前頭低活性の検討、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 93) 栗本龍、石井良平、池澤浩二、Canuet Leonides、岩瀬真生、疇地道代、高橋秀俊、中鉢貴行、福本素由己、大井一高、井池直美、安田由華、橋本亮太、吉峰俊樹、武田雅俊、統合失調症における記憶課題時の脳磁場活動の変化、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 94) 関山隆史、岩瀬真生、高橋秀俊、中鉢貴行、高橋清武、疇地道代、池澤浩二、栗本龍、Canuet Leonides、吉田哲彦、橋本亮太、石井良平、武田雅俊、慢性統合失調症患者における情動顔および中性顔の認知の特徴、その社会機能との関連、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 95) 橋本亮太、服部聡子、室谷知孝、松崎伸介、石塚智子、熊本奈都子、高村明孝、大井一高、安田由華、遠山正彌、大和谷厚、功刀浩、武田雅俊、統合失調症脆弱性遺伝子ディスプレイ欠損マウスの行動解析、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 96) 安田由華、橋本亮太、大井一高、高村明孝、福本素由己、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、紙野晃人、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、KIBRA 遺伝子の遺伝子多型と日本人統合失調症患者における記憶の関連について、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 97) 高雄啓三、遠山桂子、中西和男、服部聡子、高村明孝、武田雅俊、宮川剛、橋本亮太、Impaired long-term memory retention and working memory in sdy mutant mice with a deletion in Dtnbpl, a susceptibility gene for schizophrenia、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 98) 高村明孝、橋本亮太、大井一高、安田由華、福本素由己、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、紙野晃人、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、統合失調症脆弱性遺伝子 AKT1 と注意機能の関連、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 99) 高屋雅彦、木藤友実子、和田民樹、安田由華、橋本亮太、徳永博正、数井裕光、武田雅俊、統合失調症疑いの患者に正常圧水頭症が合併した症例、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 100) 橋本亮太、田谷真一郎、武田雅俊、貝淵弘三、統合失調症脆弱性遺伝子 dysbindin とその機能—プロテオミクス技術を用いた検討—、第4回プロテオミクス・構造生物学講演会、岡崎、1.30-31(30), 2009.
- 101) 橋本亮太、統合失調症脆弱性遺伝子 CHI3L1 の中間表現型解析と統合失調症の Remission を予測する中間表現型の同定、平成20年度厚生労働科学研究・こころの健康科学研究事業・武田班班会議「精神疾患脆弱性遺伝子と中間表現型に基づく新しい診断法・治療法の開発に関する研究」、大阪、1.20, 2009.
- 102) 岡本長久：「うつってなあに？」看護の日公開記念講演、2009年5月26日
- 103) 岡本長久：「楽に生きるためのヒント」第13回精神保健福祉を考えるつどい、2009年11月28日、東京
- 104) Ito Y, Shinnosuke Yamada BA, Itaru Kushima, Yukako Nakamura, Akira Yoshimi, Taku Nagai, Yukihiko Noda, Kinji Ohno, Norio Ozaki: ANALYSES OF GENE EXPRESSION PROFILE AND ABERRANT SPLICING IN SCHIZOPHRENIA USING EXON ARRAY, in XVII

- World Congress on Psychiatric Genetics (WCPG). San Diego, California, USA, 2009
- 105) Yoshimi A, Nagai T, Yamada S, Ishihara R, Ohashi M, Ito Y, Noda Y, Yamada K, Ozaki N: PROTEOMIC ANALYSIS OF THE LYMPHOBLASTOID CELL LINE IN THE JAPANESE SCHIZOPHRENIC PATIENTS, in XVII World Congress on Psychiatric Genetics (WCPG). San Diego, California, USA, 2009
- 106) Shinnosuke Yamada YI, Branko Aleksic, Itaru Kushima, Yukako Nakamura, Akira Yoshimi, Taku Nagai, Yukihiro Noda, Kinji Ohno, Norio Ozaki: Genome-wide Analysis of Gene Expression Profile and Transcript Isoform Variation in Schizophrenia, in The 1st Meeting of the Asian College on Neuropsychopharmacology. Kyoto, 2009
- 107) Ozaki N: DISC1-interacting molecule and schizophrenia, in 9th World Congress of Biological Psychiatry: Symposium Genetic strategies in the search for genes in schizophrenia. Paris, France, 2009
- 108) Nakamura Y, Ito Y, Aleksic B, Kushima I, Yasui-Furukori N, Inada T, Ono Y, Ozaki N: Influence of HTR2A polymorphisms and parental rearing on the personality traits in healthy Japanese, in XVIIth World Congress on Psychiatric Genetics. San Diego, 2009
- 109) Kushima I, Aleksic B, Ito Y, Nakamura Y, Nakamura K, Mori N, Kikuchi M, Inada T, Kunugi H, Nanko S, Kato T, Yoshikawa T, Ujike H, Suzuki M, Iwata N, Ozaki N: Association Study of ubiquitin-specific peptidase 46 (USP46) with bipolar disorder and schizophrenia in a Japanese population, in The 54th annual meeting of the Japan society of human genetics. Tokyo, 2009
- 110) Kushima I, Aleksic B, Ito Y, Nakamura Y, Iwata N, Ozaki N: FURTHER EVIDENCE FOR ASSOCIATION OF WNT PATHWAY RELATED GENES WITH SCHIZOPHRENIA, in WCPG 2009. San Diego, 2009
- 111) Koide T, Kushima I, Ito Y, Aleksic B, Nakamura Y, Inada T, Iwata N, Ozaki N: Dense association mapping of dihydropyrimidinase-like 2 (DPYSL2) gene in susceptibility to schizophrenia in the Japanese population, in XVII World Congress on Psychiatric Genetics (WCPG) 2009. San Diego, California, USA, 2009
- 112) Aleksic B, Kushima I, Ito Y, Nakamura Y, Hashimoto R, Ujike H, Inada T, Suzuki M, Iwata N, Ozaki N: An association study of tagging SNPs of RAB23 and schizophrenia in Japanese population, in XVII World Congress on Psychiatric Genetics (WCPG). San Diego, US, 2009
- H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）
1. 特許取得  
該当なし。
  2. 実用新案登録  
該当なし。
  3. その他  
該当なし。

厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）  
分担研究報告書

精神疾患脆弱性遺伝子と中間表現型に基づく新しい診断法・治療法の開発に関する研究  
研究分担者 橋本 亮太 大阪大学大学院医学系研究科 特任准教授

**研究要旨**

精神疾患の診断は、医師が症状を診ることによりなされており、客観的な検査等による診断法はいまだ確立したとはいえない。現在、DSM-IVやICD-10による操作的診断法が汎用されるようになってきているが、従来の外因、内因、心因の原因を想定した診断法が実際の臨床場面では有用な場合が少なくない。そこで客観的・科学的診断法の開発が、待ち望まれている。抗精神病薬や抗うつ薬は過半数の患者においては有効であり寛解するが、一方、残りにおいては治療効果がないまたは治療反応性に乏しく残遺症状や社会的機能障害が長期にわたって認められる。副作用として、錐体外路症状、体重増加・糖脂質代謝異常、抗コリン作用、性機能障害などがあり、さらに重大なものとして致死性の悪性症候群が起こることがある。よって有効性が高く、副作用の少ない治療薬の開発が待ち望まれている。本研究では、統合失調症およびうつ病の脆弱性遺伝子と中間表現型という成因理論に基づく診断法・治療法の開発を行うことを目的とする。

本年度は、ゲノムワイド関連解析により統合失調症のリスク遺伝子として ZNF804A を同定し、この遺伝子のリスク多型が、統合失調症において中間表現型の一つである視覚性記憶の低さと関連することを見出した。また、NIRS では5種類の前頭葉課題時の前頭葉の賦活化を測定することにより、2個の課題において統合失調症にて賦活化の低下が認められた。次にこれらの課題を用いると約80%の感度と特異度にて独立した2つの統合失調症と健常者群を判別することができた。さらに、これらの研究の基礎的なリサーチリソース・データベースとなる中間表現型とゲノムサンプルの収集を順調に進めている。これらの研究は、統合失調症をはじめとする精神疾患の新たな診断法・治療法の開発に役立つものと考えられる。

**A. 研究目的**

精神疾患の診断は、医師が症状を診ることによりなされており、客観的な検査等による診断法はいまだ確立したとはいえない。現在、DSM-IVやICD-10による操作的診断法が汎用されるようになってきているが、従来の外因、内因、心因の原因を想定した診断法が実際の臨床場面では有用な場合が少なくない。そこで客観的・科学的診断法の開発が、待ち望まれている。

抗精神病薬や抗うつ薬は過半数の患者においては有効であり寛解するが、一方、残りにおいては治療効果がないまたは治療反応性に乏しく残遺症状や社会的機能障害が長期にわたって認められる。副作用として、錐体外路症状、体重増加・糖脂質代謝異常、抗コリン作用、性機能障害などがあり、さらに重大なものとして致死性の悪性症候群が起こることがある。よって有効性が高く、副作用の少ない治療薬の開発が待ち望まれている。

中間表現型は、神経生物学的な表現型で精神疾患のリスクに関連するものであり、高次認知機能障害

、脳MRIにて測定する脳構造異常、神経生理学的な指標であるプレパルス抑制テスト、近赤外分光法、脳磁図等における異常などがある。中間表現型は客観的・科学的診断技法の候補であると考えられるが、単独では感度・特異度の点で十分ではない。しかし、これらの中間表現型は神経生物学的なメカニズムが異なると考えられることから、組み合わせることによって、精神疾患における客観的・科学的診断技法を確立することが期待される。よって、医療行政上、大変有意義であると考えられる。

また中間表現型と遺伝子多型の関連を検討することにより、新たな脆弱性遺伝子を見出すことが期待される。これらの脆弱性遺伝子の機能解析から、統合失調症とうつ病の新規の治療ターゲット分子を同定することができると考えられる。統合失調症では、現在用いられているドパミン仮説に基づく抗精神病薬と異なる機序による治療薬の開発に必要な知見が得られることが予測される。新たな治療薬の開発に成功すれば、国民の保健・精神医療において多大なる貢献ができると考えられる。このように

本研究では、統合失調症およびうつ病の脆弱性遺伝子と中間表現型という成因理論に基づく診断法・治療法の開発を行うことを目的とする。

そのためには、統合失調症、気分障害、健常者において、脳MRI画像や認知機能検査データなどの中間表現型と遺伝子解析に用いるゲノムサンプルを同一被験者において収集する必要がある。また、脳MRI画像などの中間表現型と遺伝子解析を組み合わせた解析を行うため200例以上の多数の症例を必要とすることから十分な検討を行うための精神疾患のリサーチリソース・データベースを構築することも目的とする。

遺伝子としては、統合失調症のゲノムワイド関連解析にて見出されたZNF804Aについて中間表現型のうち記憶との関連を検討すること、そして、統合失調症の客観的・科学的そして簡便な検査法としてNIRSを用いることを目的とする。

## B. 研究方法

大阪大学医学部附属病院にて統合失調症、躁うつ病、うつ病の患者様をリクルートした。健常者の研究参加に関しては、大阪大学医学部附属病院神経科精神科の関連スタッフや近隣のボランティアの協力を得て行った。被験者については、文書による説明と同意をいただいた上で、原則的にMRI撮像（3D構造画像、拡散テンソル画像）と認知機能検査バッテリー（知能指数：WAIS-IIIまたはWAIS-R：Wechsler Adult Intelligence Scale-IIIまたはRevised、推定病前知能検査：JART:Japanese Adult Reading Test、記憶検査：WMS-R：Wechsler Memory Scale-Revised、AVLT：The Auditory-Verbal Learning Test、前頭葉機能検査：WCST:Wisconsin Card Sorting Test、注意・集中力検査：Continuous performance test: CPT、言語流暢性:WF:Word Fluency）、神経生理機能検査（プレパルス抑制テスト、近赤外分光法：NIRS、脳波）、性格検査（TCI：Temperament and Character Inventory、SPQ:Schizotypal personality Questionnaire）を行ったうえで、採血を行いDNA、RNAを抽出し、リンパ芽球化を行った。臨床的評価としては、SCID（Structural Clinical Interview for DSM-IV）にて診断を行い、統合失調症においては、PANSS（Positive and Negative Syndrome Scale：陽性・陰性症状評価尺度）による症状評価とDIEPSS(Drug-Induced Extrapyrimal Symptoms

Scale 薬原性錐体外路症状評価尺度)による副作用評価、そして、気分障害においては、HAMD (Hamilton Rating Scale for Depression:ハミルトン鬱病評価尺度) またはYMRS (Young Mania Rating Scale: ヤング躁病評価尺度日本語版) を用いて症状評価を行った。遺伝子多型の判定を行うに当たって、Applied BiosystemsのTaqMAN法を用いた。これらのデータを用いて、統合失調症のゲノムワイド関連解析にて見出されたZNF804Aと記憶の関連と統合失調症の客観的・科学的そして簡便な検査法としてNIRSを用いた検討を行った。本研究は、大阪大学倫理審査委員会において承認を受けており、それに基づいて、試料提供者への説明とインフォームド・コンセント、個人情報 の 厳 重 な 管 理 ( 匿 名 化 ) な ど を 徹 底 さ せ た。

### (倫理面への配慮)

本研究は、精神疾患患者を対象とした遺伝子解析研究である。試料提供者およびその血縁者の遺伝的素因を研究するため、その取り扱いによっては、さまざまな倫理的、社会的問題を招く可能性がある。したがって、文部科学省、厚生労働省、経済産業省告示第1号の「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」を遵守した研究計画書を作成し、研究施設での倫理委員会において承認を受けた上で研究を行った。試料提供者への説明とインフォームド・コンセント、個人情報の厳重な管理（匿名化）などを徹底させた。また、遺伝子解析研究においては、大阪大学倫理審査委員会において承認を受けている。

本研究の説明を行う過程や試料等提供の過程で、強制的な態度や同意の強要をしないことはいうまでもない。試料提供の依頼を拒否したからといって、診療行為等に不合理または不公平なことが行われることは全くない。また、同意はいつでも文書によって撤回することができ、その場合、試料等は廃棄される。治療中の患者様に関しては、試料提供を依頼することが主治医によって不適切であると判断された場合は、試料提供の依頼は行わない。強制入院（医療保護入院や措置入院）している患者様は対象から除外する。

## C. 研究結果

まず、本研究の基盤となる被験者のリクルートとサンプル収集・各種検査を行った。以下、全体の保



有サンプル・データ数（平成 21 年度に収集したサンプル数）というように表記して収集成果を示す。まずゲノムサンプルに関しては統合失調症 621 例（83 例）、気分障害 105 例（12 例）、健常者 330 例（82 例）、その他の精神疾患 84 例（23 例）を収集した。ゲノムサンプルとともに血漿サンプルもすべてのサンプルで収集している。血中の RNA サンプルについては、統合失調症 478 例（83 例）、気分障害 100 例（12 例）、健常者 330 例（82 例）、その他の精神疾患 84 例（23 例）を収集した。RNA サンプルは脳の病態を直接反映している可能性が高いとは言えないが、簡便に採取することが可能なため、生物学的マーカーとして期待される。そこで、治療の前後など複数回のサンプリングを行っているものが、統合失調症 82 例（8 例）、気分障害 33 例（4 例）である。また、この血液サンプルのうち、EB ウィルスを用いて株化し不死化したリンパ芽球を、統合失調症 317 例（83 例）、気分障害 70 例（12 例）、健常者 279 例（82 例）、その他の精神疾患 63 例（23 例）収集した。認知機能に関しては、知能指数（WAIS-III または WAIS-R）を統合失調症 168 例（35 例）、健常者 336 例（82 例）、推定病前 IQ 検査（JART）を統合失調症 203 例（40 例）、健常者 364 例（82 例）、記憶検査（WMS-R）を統合失調症 180 例（31 例）、健常者 324 例（82 例）、記憶検査（AVLT）を統合失調症 98 例（26 例）、健常者 324 例（82 例）、前頭葉機能検査（WCST）を統合失調症 75 例（22 例）、健常者 184 例（82 例）、注意・集中力検査（CPT）を統合失調症 131 例（33 例）、健常者 324 例（82 例）、言語流暢性（WF）を統合失調症 138 例（28 例）、健常者 324 例（82 例）の検査を行った。

神経生理機能においては、脳機能画像法である近赤外線スペクトロスコピー（NIRS）を用いて、4 種類の前頭葉課題遂行時の局所脳血液量を、統合失調症 177 例（64 例）、気分障害 64 例（15 例）、健常者 287 例（82 例）、その他の精神疾患 37 例（13 例）において測定した。また、驚愕反応テストとして、prepulse inhibition（PPI：強い刺激の直前に微弱な刺激を先行させると驚愕反応が抑制される現象）と habituation（HAB：馴化：強い刺激を繰り返すことにより慣れが起こり次第に驚愕反応が弱くなる現象）を、統合失調症 139 例（35 例）、気分障害 61 例（12 例）、健常者 277 例（82 例）、その他の精神疾患 30 例（11 例）測定した。脳波については統合失調症 147 例（40 例）、気分障害 49 例（13 例）、

健常者 57 例（12 例）、その他の精神疾患 44 例（18 例）の測定を行った。

臨床的な評価である SCID に関しては、認知機能、生理機能、脳画像のデータのある健常者全例において、SCID-NP（non-patient）version を施行して健常者であることを確認している。患者群に関しては、SCID を統合失調症 190 例（40 例）、気分障害 108 例（20 例）、PANSS を統合失調症 220 例（40 例）のうち複数回検査が 104 例（33 例）、DIEPSS を統合失調症 198 例（40 例）のうち複数回検査が 70 例（20 例）、HAMD または YMRS を気分障害 71 例（8 例）、そのうち複数回検査が 28 例（4 例）を施行した。

性格検査として、TCI を統合失調症 175 例（66 例）、気分障害 47 例（12 例）、健常者 232 例（79 例）、その他の精神疾患 17 例（6 例）に、SPQ を健常者 324 例（82 例）に行った。

最後に脳画像検査として、脳 MRI 画像撮像を行い、3D 構造画像と拡散テンソル画像のデータを得た。これらの画像のうち、構造的に粗大な異常がなく、SPM5 で解析するためのデータ処理を行うことができたものが、統合失調症 88 例（33 例）、気分障害 12 例（5 例）、健常者 264 例（78 例）、その他の精神疾患 22 例（7 例）であった。これらは遺伝子多型との関連を検討することができる準備が整っている。

ZNF804A 遺伝子の rs1344706 多型の T アレルが統合失調症のリスクとなることが 2008 年に統合失調症の世界で初めてのゲノムワイド関連解析にて報告された。我々は、Wechsler Memory Scale-Revised によって測定される言語性記憶、視覚性記憶、注意・集中力、そして遅延再生に対する、診断効果、この統合失調症のリスク多型の効果、そして相互作用効果について、113 名の統合失調症患者と 184 名の健常者について 2 元分散解析を行った。その結果、以前から報告されているように統合失調症では健常者と比較してどの記憶のドメインも成績が悪かった（ $p < 0.001$ ）。ZNF804A 遺伝子多型効果そのものはどの記憶のドメインにも認められなかったが、ZNF804A 遺伝子多型と診断の相互作用効果が、視覚性記憶においてのみ認められた（ $p = 0.0012$ ）。そこで、健常者と統合失調症患者を分けてリスク遺伝子多型効果を検討すると、リスクアレルをホモで持つ T/T 多型の統合失調症患者では、G アレルを保有する統

合失調症患者と比較して、視覚性記憶の成績が悪かった( $p=0.018$ )。

統合失調症では前頭葉機能障害が認められることがよく知られているが、前頭葉機能課題として、言語流暢性文字、言語流暢性分類、ハノイの塔課題、スタンバーク課題、ストループ課題の5つの課題を用いて NIRS にて前頭葉の賦活を統合失調症患者 177 名と健常者 287 名において検討した。その結果、言語流暢性文字とハノイの塔課題において、統合失調症において前頭葉の賦活が弱かった。これらの5つの前頭葉課題を行うには約1時間かかり、これらの課題のパフォーマンスを用いて統合失調症と健常者の判別率が78%であった。一方、統合失調症において前頭葉賦活が弱い言語流暢性文字とハノイの塔課題のパフォーマンスと NIRS による前頭葉賦活を組み合わせると統合失調症と健常者の判別解析を行うと判別率が75%であった。この二つの課題は、約20分で終了するため、前頭葉認知課題における成績だけではなく、その時の NIRS による前頭葉賦活を加えることで短時間で同程度の判別が可能となった。

#### D. 考察

我々は、統合失調症の中間表現型として、MRI 撮像(3D 構造画像、拡散テンソル画像)と認知機能検査バッテリー(知能指数:WAIS-III:Wechsler Adult Intelligence Scale-III、推定病前知能検査:JART:Japanese Adult Reading Test、記憶検査:WMS-R:Wechsler Memory Scale-Revised、前頭葉機能検査:WCST:Wisconsin Card Sorting Test、注意・集中力検査:Continuous performance test:CPT、言語流暢性:WF:Word Fluency)、神経生理機能検査(プレパルス抑制テスト、近赤外分光法:NIRS、脳波、脳磁図)、性格検査(TCI:Temperament and Character Inventory、SPQ:Schizotypal personality Questionnaire)を行ってきた。その同じ被験者において、ゲノムサンプル、血漿、血中 RNA、リンパ芽球を収集し、中間表現型と遺伝子との関連を検討した。その結果、

治療法の開発研究においては、ゲノムワイド関連解析により統合失調症のリスク遺伝子として ZNF804A を同定し、この遺伝子のリスク多型が中間表現型の一つである視覚性記憶の低さと関連することを見出した。このように精神疾患のリスク遺伝

子を同定したことは、分子に基づく治療法の開発に今後結び付くと考えられる。一方、ZNF804A 遺伝子の機能については、まだよく知られておらず、今後分子生物学的な研究を進めていく必要がある。また、記憶との関連が見出されたことから、ZNF804A 遺伝子の異常をもつモデルマウスにおいて、記憶障害が認められるかどうかを検討していく必要があると思われる。

もう一つのテーマである中間表現型によって客観的科学的診断法を開発することに関しては、前頭葉課題と NIRS による前頭葉賦活を組み合わせることで、短時間で統合失調症と健常者の判別ができることを見出された。NIRS による診断技法を確立するため、マニュアル作りを進めて、うつ病などの他の精神疾患との判別解析や他の施設における追試研究を経て、先進医療として普及させるということがこれからの課題となると考えている。

今後、これらの中間表現型同士または遺伝子多型を組み合わせることにより、新たな科学的客観的診断法を確立できるものと考えられる。さらに、遺伝子多型と中間表現型の関連を検討することにより、新たな脆弱性遺伝子の発見につながるのではないかと考えられる。

#### E. 結論

我々は、精神疾患脆弱性遺伝子と中間表現型に基づく新しい診断法・治療法の開発のために必要なリサーチリソース・データベースを当初の計画より早いペースで構築している。さらに、ZNF804A 遺伝子の統合失調症のリスク多型が統合失調症の視覚性記憶障害に関連すること、そして前頭葉認知課題と NIRS を組み合わせることにより短時間で統合失調症の判別が可能となるという結果を得た。これらの結果は、新たな診断・治療法のシーズと考えられる。このように中間表現型に基づく客観的診断法の確立と新たな治療薬の開発は、医療行政上、大変有意義であり、国民の保健・精神医療において多大なる貢献ができると考えられる。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) Hashimoto R, Fukuda S, Ohi K, Yamaguti K, Nakatomi Y, Yasuda Y, Kamino K, Takeda M, Tajima S, Kuratsune H, Nishizawa Y, Watanabe Y. A functional polymorphism in the

- Disrupted-in schizoprennia 1 gene is associated with chronic fatigue syndrome. *Life Sciences* (in press).
- 2) Yasuda Y, Hashimoto R, Ohi K, Fukumoto M, Takamura H, Iike N, Kiribayashi M, Yoshida T, Hayashi N, Takahashi H, Yamamori H, Morihara T, Tagami S, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Kamino K, Ishii R, Iwase M, Kazui H, Takeda M. Association study of *KIBRA* gene with memory performance in a Japanese population. *Genes, Brain and Behavior*, in press.
  - 3) Ohnuma T, Shibata N, Baba H, Ohi K, Yasuda Y, Nakamura Y, Okochi T, Naitoh H, Hashimoto R, Iwata N, Ozaki N, Takeda M, Arai H. No association between DAO and schizophrenia in a Japanese patient population: A multicenter replication study. *Schizophr Res.* (in press)
  - 4) Mori K, Okochi M, Tagami S, Nakayama T, Yanagida K, Kodama T, Tatsumi S, Fujii K, Tanimukai H, Hashimoto R, Morihara T, Tanaka T, Kudo T, Funamoto S, Ihara Y, Takeda M. The production ratios of AICD  $\epsilon$  51 and A $\beta$  42 by intramembrane proteolysis of  $\beta$ APP do not always change in parallel. *Psychogeriatrics*. (inpress)
  - 5) Amagane H, Watanabe Y, Kaneko N, Nunokawa A, Muratake T, Ishiguro H, Arinami T, Ujike H, Inada T, Iwata N, Kunugi H, Sasaki T, Hashimoto R, Itokawa M, Ozaki N, Someya T. Failure to find an association between myosin heavy chain 9, non-muscle (MYH9) and schizophrenia: a three-stage case-control association study. *Schizophr Res*, (in press).
  - 6) Aleksic B, Kushima I, Ito Y, Nakamura Y, Ujike H, Suzuki M, Inada T, Hashimoto R, Takeda M, Iwata N, Ozaki N. Genetic association study of *KREMEN1* and *DKK1* and schizophrenia in Japanese population. *Schizophr Res*, (in press).
  - 7) Schulze T, Alda M, Adli M, Akula N, Ardaur R, Chillotti C, Cichon S, Czerski P, Zompo M, SDeTera-Wadleigh S, Grof P, Gruber O, Hashimoto R, Hauser J, Hoban R, Iwata N, Kassem L, Kato T, Kittel-Schneider S, Kliwicki S, Kelsoe J, Kusumi I, Laje G, Leckband S, Manchia M, MacQueen G, Masui T, Ozaki N, Perlis R, Pfennig A, Piccardi P, Richardson S, Rouleau G, Reif A, Rybakowski J, Sasse J, Schumacher J, Severino G, Smoller J, Squassina A, Turecki G, Young T, Yoshikawa T, Bauer M, McMahon F. The International Consortium on Lithium Genetics (ConLiGen): An Initiative by the NIMH and IGSLI to Study the Genetic Basis of Response to Lithium Treatment, *Neuropsychobiology*, (in press)
  - 8) Numata S, Nakataki M, Iga J, Tanahashi T, Nakadoi Y, Ohi K, Hashimoto R, Takeda M, Itakura M, Ueno S, Ohmori T. Association study between the pericentrin (PCNT) gene and schizophrenia. *NeuroMolecular Medicine*, (in press).
  - 9) Takahashi H, Iwase M, Canuet L, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Iike N, Nakahachi T, Ikezawa K, Azechi M, Kurimoto R, Ishii R, Yoshida T, Kazui H, Hashimoto R, Takeda M. Relationship between prepulse inhibition of acoustic startle response and schizotypy in healthy Japanese subjects. *Psychophysiology*, (in press).
  - 10) Azechi M, Iwase M, Ikezawa K, Takahashi H, Canuet L, Kurimoto R, Nakahachi T, Ishii R, Fukumoto M, Ohi K, Yasuda Y, Kazui H, Hashimoto R, Takeda M. Discriminant analysis in schizophrenia and healthy subjects using prefrontal activation during frontal lobe tasks: A near-infrared spectroscopy study. *Schizophr Res*, 117(1):52-60, 2010.
  - 11) Ikeda M, Tomita Y, Mouri A, Koga M, Okochi T, Yoshimura R, Yamanouchi Y, Kinoshita Y, Hashimoto R, Williams H, Takeda M, Nakamura J, Nabeshima T, Owen M, O'Donovan M, Honda H, Arinami T, Ozaki N, Iwata N. Identification of novel candidate genes for treatment response to risperidone and susceptibility for schizophrenia: integrated analysis among pharmacogenomics, mouse expression and genetic case-control association approaches. *Biol. Psychiatry*,

- 67(3):263–269, 2010.
- 12) Hashimoto R, Hashimoto H, Shintani N, Ohi K, Hori H, Saitoh O, Kosuga A, Tatsumi M, Iwata N, Ozaki N, Kamijima K, Baba A, Takeda M, Kunugi H. Possible association between the pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) gene and major depressive disorder. *Neuroscience Lett*, 468(3):300–302, 2010.
  - 13) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Yoshida T, Takahashi H, Iike N, Iwase M, Kamino K, Ishii R, Kazui H, Fukumoto M, Takamura H, Azechi M, Ikezawa K, Tanimukai H, Tagami S, Morihara T, Okochi M, Yamada K, Numata S, Ikeda M, Tanaka T, Kudo T, Ueno S, Yoshikawa T, Tetsuro Ohmori T, Iwata N, Ozaki N, Takeda M. The Chitinase 3-Like 1 gene and schizophrenia: evidence from a multi-center case-control study and meta-analysis. *Schizophrenia Res*, 116:126–132, 2010.
  - 14) Canuet L, Ishii R, Iwase M, Ikezawa K, Kurimoto R, Takahashi H, Currais A, Azechi M, Nakahachi T, Hashimoto R, Takeda M. Working memory abnormalities in chronic interictal epileptic psychosis and schizophrenia revealed by magnetoencephalography. *Epilepsy Behav*. 17(1):109–119, 2010.
  - 15) Okuda H, Kuwahara R, Matsuzaki S, Miyata S, Kumamoto N, Hattori T, Shimizu S, Yamada K, Kawamoto K, Hashimoto R, Takeda M, Katayama T, Tohyama M. Dysbindin regulates the transcriptional level of myristoylated alanine-rich protein kinase C substrate via the interaction with NF-YB in mice brain. *PLoS One*. 19;5(1):e8773, 2010.
  - 16) Nunokawa A, Watanabe Y, Kaneko N, Sugai T, Yazaki S, Arinami T, Ujike H, Inada T, Iwata N, Kunugi H, Sasaki T, Itokawa M, Ozaki N, Hashimoto R, Someya T. The dopamine D3 receptor (DRD3) gene and risk of schizophrenia: case-control studies and an updated meta-analysis. *Schizophr Res*, 116(1):61–67, 2010.
  - 17) Hikita T, Taya S, Fujino Y, Taneichi-Kuroda S, Ohta K, Tsuboi D, Shinoda T, Kuroda K, Funahashi Y, Uruguchi-Asaki J, Hashimoto R, Kaibuchi K. Proteomic analysis reveals novel binding partners of dysbindin, a schizophrenia-related protein. *J Neurochem*, 110(5):1567–1574, 2009.
  - 18) Moriwaki M, Kishi T, Takahashi H, Hashimoto R, Kawashima K, Okochi T, Furukawa O, Fujita K, Takeda M, Iwata N. Prepulse inhibition of the startle response with chronic schizophrenia: A replication study. *Neuroscience Res*, 65(3):259–262, 2009.
  - 19) Hashimoto R, Ohi K, Okada T, Yasuda Y, Yamamori H, Hori H, Hikita T, Taya S, Saitoh O, Kosuga A, Tatsumi M, Kamijima K, Kaibuchi K, Takeda M, Kunugi H. Association analysis between schizophrenia and the AP-3 complex genes. *Neuroscience Res*, 65(1):113–5, 2009.
  - 20) Hashimoto R, Hashimoto H, Shintani N, Tanaka K, Yamamoto A, Hatanaka M, Guo X, Morita Y, Tanida M, Nagai K, Takeda M, Baba A. Depression-like behavior in the forced swimming test in PACAP-deficient mice: amelioration by the atypical antipsychotic risperidone. *J. Neurochem*, 110(2):595–602, 2009.
  - 21) Hashimoto R, Noguchi H, Hori H, Ohi K, Yasuda Y, Takeda M, Kunugi H. Association between the dysbindin gene (*DTNBP1*) and cognitive functions in Japanese subjects. *Psychiatry Clin Neurosci* 63(4):550–6, 2009.
  - 22) Hashimoto R, Noguchi H, Hori H, Nakabayashi T, Suzuki T, Iwata N, Ozaki N, Kosuga A, Tatsumi M, Kamijima K, Harada S, Saitoh O, Takeda M, Kunugi H. A genetic variation in the dysbindin gene (*DTNBP1*) is associated with memory performance in healthy controls. *The World Journal of Biological Psychiatry*, 7:1–8, 2009.
  - 23) Hashimoto R, Mori T, Nemoto K, Moriguchi Y, Noguchi H, Nakabayashi T, Hori H, Harada S, Kunugi H, Saitoh O, Ohnishi T. Abnormal microstructures of the basal ganglia in

- schizophrenia revealed by diffusion tensor imaging. *The World Journal of Biological Psychiatry*, 10(1): 65-69, 2009.
- 24) Hashimoto R, Hirata Y, Asada T, Yamashita F, Nemoto K, Mori T, Moriguchi Y, Kunugi H, Arima K, Ohnishi T. Effect of the BDNF and the ApoE polymorphisms on disease progression in preclinical Alzheimer's disease. *Genes, Brain and Behavior*, 8(1), 43-52, 2009.
- 25) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Kiribayashi M, Iike N, Yoshida T, Azechi M, Ikezawa K, Takahashi H, Morihara T, Ishi R, Tagami S, Iwase M, Okochi M, Kamino K, Kazui H, Tanaka T, Kudo T, Takeda M. TATA Box-Binding Protein gene is associated with risk for schizophrenia, age at onset and prefrontal function. *Genes, Brain and Behavior*, 8(4):473-80, 2009.
- 26) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Yoshida T, Takahashi H, Iike N, Fukumoto M, Takamura H, Iwase M, Kamino K, Ishii R, Kazui H, Sekiyama R, Kitamura Y, Azechi M, Ikezawa K, Kurimoto R, Kamagata E, Tanimukai H, Tagami S, Morihara T, Ogasawara M, Okochi M, Tokunaga H, Numata S, Ikeda M, Ohnuma T, Ueno S, Fukunaga T, Tanaka T, Kudo T, Arai H, Ohmori T, Iwata N, Ozaki N, Takeda M. Association study of the G72 gene with schizophrenia in a Japanese population: a multicenter study. *Schizophr Res*, 109(1-3), 80-85, 2009.
- 27) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Yamamori H, Hori H, Saitoh O, Tatsumi M, Takeda M, Iwata N, Ozaki N, Kamijima K, Kunugi H. No association between the Bcl2-interacting killer (BIK) gene and schizophrenia. *Neuroscience Lett*, 463(1):60-3, 2009.
- 28) Yanagida K, Okochi M, Tagami S, Nakayama T, Kodama T, Nishitomi K, Jiang J, Mori K, Tatsumi S, Arai T, Ikeuchi T, Kasuga K, Tokuda T, Kondo M, Ikeda K, Deguchi K, Kazui H, Tanaka T, Morihara T, Hashimoto R, Kudo T, Steiner H, Haass C, Tsuchiya K, Kiyama H, Kuwano R, Takeda M. The 28-amino acid form of an APLP1-derived A $\beta$ -like peptide is a surrogate marker for A $\beta$  42 production in the central nervous system. *EMBO Molecular Medicine*, 1:223-235, 2009.
- 29) Kubota K, Inoue K, Hashimoto R, Kumamoto N, Kosuga A, Tatsumi M, Kamijima K, Kunugi H, Iwata N, Ozaki N, Takeda M, Tohyama M. Tumor necrosis factor receptor-associated protein 1 regulates cell adhesion and synaptic morphology via modulation of N-cadherin expression. *J. Neurochem*, 110(2):496-508, 2009.
- 30) Ikezawa, K, Iwase, M, Ishii R, Azechi M, Canuet L, Ohi K, Yasuda Y, Iike N, Kurimoto R, Takahashi H, Nakahachi T, Sekiyama R, Yoshida T, Kazui H, Hashimoto R, Takeda M. Impaired regional hemodynamic response in schizophrenia during multiple prefrontal activation tasks: a two-channel near-infrared spectroscopy study. *Schizophr Res* 108(1-3):93-103, 2009.
- 31) Kubota K, Kumamoto N, Matsuzaki S, Hashimoto R, Hattori T, Okuda H, Takamura H, Takeda M, Katayama T, Tohyama M. Dysbindin engages in c-Jun N-terminal kinase activity and cytoskeletal organization. *Biochem Biophys Res Commun*, 379(2), 191-195, 2009.
- 32) 安田由華、橋本亮太、大井一高、福本素由己、高村明孝、毛利育子、谷池雅子、武田雅俊、精神科における広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度 (PARS) 思春期・成人期尺度の有用性についての予備的検討、*精神医学*、51(12):1197-1203, 2009. 医学書院.
- 33) 安田由華、橋本亮太、富岡孝仁、大井一高、福本素己、武田雅俊、成熟拒否のため9歳から体重増加が停止した12歳の神経性無食欲症の女兒に多重構造化入院システムが奏効した一例、*精神科治療学*、4(3):363-369, 2009.

## 2. 学会発表

- 1) Hashimoto R, Takamura H, Ohi K, Fukumoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Takeda M, Dysbindin and drug development for schizophrenia. The 1<sup>st</sup> Asian Workshop on Schizophrenia Research, Osaka, Japan, January 31<sup>st</sup> - February 1<sup>st</sup> (1<sup>st</sup>), 2009.

- 2) Azechi M, Iwase M, Ikezawa K, Takahashi H, Canuet L, Kurimoto R, Nakahachi T, Ishii R, Fukumoto M, Ohi K, Yasuda Y, Kazui H, Hashimoto R, Takeda M. Discriminant analysis in schizophrenia and healthy subjects on prefrontal activation measures using NIRS during frontal lobe tasks. The 1<sup>st</sup> Asian Workshop on Schizophrenia Research, Osaka, Japan, January 31<sup>st</sup> - February 1<sup>st</sup> (31<sup>st</sup>), 2009.
- 3) Takahashi H, Iwase M, Canuet L, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Iike N, Nakahachi T, Ikezawa K, Azechi M, Kurimoto R, Ishii R, Yoshida T, Kazui H, Hashimoto R, Takeda M. IMPAIRED PREPULSE INHIBITION OF ACOUSTIC STARTLE RESPONSE IN JAPANESE PATIENTS WITH SCHIZOPHRENIA. The 1<sup>st</sup> Asian Workshop on Schizophrenia Research, Osaka, Japan, January 31<sup>st</sup> - February 1<sup>st</sup> (1<sup>st</sup>), 2009.
- 4) 中江文、橋本亮太、前田尚吾、福本素由己、大井一高、山森英長、安田由華、酒井規広、奥知子、石垣尚一、柴田政彦、武田雅俊、眞下節、統合失調症患者の痛覚閾値、第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (27), 2010.
- 5) 福本素由己、橋本亮太、安田由華、大井一高、高橋秀俊、山森英長、井池直美、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、統合失調症における Remission の研究、第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (27), 2010.
- 6) Teraishi T, Fujii T, Uchiyama H, Yamamoto N, Iijima Y, Hori H, Hattori K, Hashimoto R, Matuso J, Kawamoto Y, Kinoshita Y, Kunugi H. Association analysis of the phenylalanine hydroxylase and 6-pyruvoyl tetrahydropterin synthase genes with schizophrenia and cognitive functions. 第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (27), 2010.
- 7) Hattori K, Iijima Y, Uchiyama H, Yamamoto N, Fujii T, Hashimoto R, Hori H, Teraishi T, Kinoshita Y, Matsuo J, Kawamoto Y, Arima K, Kunugi H. Genetic variations of fyn-tyrosine kinase and schizophrenia. 第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (27), 2010.
- 8) 有波忠雄、石黒浩毅、功刀浩、佐々木司、氏家寛、染矢俊幸、渡部雄一郎、橋本亮太、MTHFR 遺伝子多型と統合失調症との関連、第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (27), 2010.
- 9) Takamura H, Hashimoto R, Shintani N, Matsuzaki S, Haba R, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Yamamori H, Hashimoto H, Baba A, Takeda M. Behavioral analysis of mice overexpressing dysbindin-1, a susceptibility gene for schizophrenia. 第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (27), 2010.
- 10) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Takahashi H, Saitoh O, Tatsumi M, Iwata N, Ozaki N, Kamijima K, Kunugi H, Takeda M. RELA Gene is associated with risk for schizophrenia and deficits in prepulse inhibition. 第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (27), 2010.
- 11) 岩瀬真生、疇地道代、池澤浩二、石井良平、高橋秀俊、中鉢貴行、レオニデスカヌエト、数井裕光、福本素由己、大井一高、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、2ch-NIRS による複数の前頭葉課題試行中の酸化Hb濃度の賦活曲線特性-統合失調症と健常者の比較、第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (27), 2010.
- 12) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Yamamori H, Hori H, Saitoh O, Tatsumi M, Takeda M, Iwata N, Ozaki N, Kamijima K, Kunugi H. No association between the *Bcl2-interacting killer (BIK)* gene and schizophrenia. 第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (26), 2010.
- 13) 山森英長、橋本亮太、高村明孝、Louise Verrall、安田由華、大井一高、福本素由己、伊藤彰、武田雅俊、統合失調症患者由来のリンパ芽球における、統合失調症関連遺伝子、Dysbindin1、NRG1、の発現、第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (26), 2010.
- 14) 新井誠、糸川昌成、吉川武男、有波忠雄、氏家寛、尾崎紀夫、橋本亮太、功刀浩、笠井清人、橋本謙二、森則夫、岩田仲生、岡崎祐土、宮田敏男、統合失調症の病態におけるカルボニルストレス代謝制御に関する研究、第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (26), 2010.

- 2010.
- 15) 井池直美、橋本亮太、安田由華、大井一高、高村明孝、福本素由己、川崎康、高橋秀俊、岩瀬真生、数井裕光、井村修、武田雅俊、統合失調症患者の論理記憶障害と生活の質に関する検討、第五回日本統合失調症学会、博多、3. 26-27 (26), 2010.
  - 16) 橋本亮太、座長、Naveed Iqbal 講演会、大阪、3. 16, 2010.
  - 17) 池澤浩二、石井良平、岩瀬真生、Leonides Canuet、栗本龍、高橋秀俊、中鉢貴行、疇地道代、大井一高、福本素由己、高村明孝、安田由華、井池直美、高屋雅彦、数井裕光、橋本亮太、吉峰俊樹、武田雅俊、統合失調症患者の作業記憶課題時におけるガンマ帯域の脳磁場活動変化に関する検討、第 32 回 Fm $\theta$  研究会、大阪、2. 27, 2010.
  - 18) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Yamamori H, Takahashi H, Tanimukai H, Tagami S, Morihara T, Okochi M, Okochi T, Tanaka T, Kudo T, Kazui H, Saitoh O, Tatsumi M, Iwata N, Ozaki N, Kamijima K, Kunugi H, Takeda M. *RELA* Gene is associated with risk for schizophrenia and deficits in prepulse inhibition. 第 17 回精神行動遺伝学会、大阪、2. 11, 2010.
  - 19) 安田由華、橋本亮太、山森英長、大井一高、福本素由己、高村明孝、毛利育子、谷池雅子、武田雅俊、広汎性発達障害におけるリンパ芽球を用いた mRNA 発現定量解析についての検討、第 17 回精神行動遺伝学会、大阪、2. 11, 2010.
  - 20) 大井一高、橋本亮太、安田由華、吉田哲彦、高橋秀俊、井池直美、岩瀬真生、紙野晃人、石井良平、数井裕光、福本素由己、高村明孝、山森英長、疇地道代、池澤浩二、谷向仁、田上真次、森原剛史、大河内正康、山田和男、沼田周助、池田匡志、田中稔久、工藤喬、上野修一、吉川武男、大森哲郎、岩田仲生、尾崎紀夫、武田雅俊、*CH13L1* 遺伝子多型は統合失調症のリスク及び TCI による人格傾向と関連する；日本人患者対照研究及びメタ解析からのエビデンス、第 17 回精神行動遺伝学会、大阪、2. 11, 2010.
  - 21) 福本素由己、橋本亮太、安田由華、大井一高、高橋秀俊、高村明孝、山森英長、井池直美、数井裕光、岩瀬真生、武田雅俊、統合失調症における Remission の研究、第 17 回精神行動遺伝学会、大阪、2. 11, 2010.
  - 22) 山森英長、橋本亮太、高村明孝、Louise Verrall、安田由華、大井一高、福本素由己、伊藤彰、武田雅俊、統合失調症患者由来のリンパ芽球における、統合失調症関連遺伝子の発現解析、第 17 回精神行動遺伝学会、大阪、2. 11, 2010.
  - 23) 橋本亮太、統合失調症の中間表現型を用いた遺伝子解析研究—神経生理機能に着目して—、第 6 回統合失調症研究会、東京、2. 7, 2010.
  - 24) 橋本亮太、「第 4 回報告と阪大精神科における統合失調症の臨床と研究」、The 5<sup>th</sup> meeting Consider the Ability of Discharged Patients”、大阪、2. 2, 2010.
  - 25) 青木保典、橋本亮太、武田雅俊、家族関係の困難さから治療開始まで 10 年かかった児童期発症の家族性統合失調の 1 例、第 7 回大阪中央精神科症例検討会、大阪、1. 21, 2009.
  - 26) 橋本亮太、統合失調症の中間表現型解析-NIRS による診断法の開発と脆弱性遺伝子 ZNF804A と記憶機能の関連—、平成 21 年度厚生労働科学研究・こころの健康科学研究事業・武田班班会議「精神疾患脆弱性遺伝子と中間表現型に基づく新しい診断法・治療法の開発に関する研究」、大阪、1. 12, 2010.
  - 27) 橋本亮太、高村明孝、高雄啓三、服部聡子、安田由華、大井一高、福本素由己、井池直美、山森英長、功刀浩、宮川剛、武田雅俊、統合失調症脆弱性遺伝子ディスバインジンの遺伝子改変動物による分子病態研究、統合脳 5 領域「平成 21 年度 冬の合同班会議」、東京、12. 17-19 (19), 2009.
  - 28) Ryota Hashimoto, Neurobiology of Mental disorders, Symposium “Glial cells and brain disorders” Invitation Program for Advanced research Institutions in Japan, November 26, 2009, Okazaki, Japan.
  - 29) 橋本亮太、統合失調症、宝塚市障害者自立生活支援センター講演会、宝塚、11. 21, 2009.
  - 30) 橋本亮太、安田由華、大井一高、福本素由己、高村明孝、山森英長、高雄啓三、大和谷厚、遠山正彌、宮川剛、武田雅俊、統合失調症リスク遺伝子と神経可塑性：抗精神病薬の創薬ターゲット分子、第 19 回日本臨床精

- 神神経薬理学会・第39回日本神経精神薬理学会合同年会、京都、11.13-15(13), 2009.
- 31) 大井一高、橋本亮太、高村明孝、安田由華、福本素由己、山森英長、高橋秀俊、井池直美、紙野晃人、吉田哲彦、疇地道代、池澤浩二、谷向仁、田上真次、森原剛史、大河内正康、田中稔久、工藤喬、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、統合失調症患者における AKT1 遺伝子と注意機能の関連、第9回精神疾患と認知機能研究会、東京、11.7, 2009.
  - 32) 橋本亮太、安田由華、大井一高、福本素由己、高橋秀俊、高村明孝、山森英長、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、阪大病院神経科・精神科における「統合失調症専門外来」について、第9回精神疾患と認知機能研究会、東京、11.7, 2009.
  - 33) 橋本亮太、田谷真一郎、武田雅俊、貝淵弘三、精神疾患のプロテオミクス、第5回プロテオミクス・構造生物学講演会、東京、11.2-3(3), 2009.
  - 34) 山森英長、橋本亮太、高村明孝、Louise Verrall、安田由華、大井一高、福本素由己、武田雅俊、伊藤彰、統合失調症患者由来のリンパ芽球における、統合失調症関連遺伝子、Dysbindin1、NRG1、の発現、第16回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
  - 35) 安田由華、橋本亮太、大井一高、福本素由己、高村明孝、武田雅俊、精神科における広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度 (PARS) の有用性についての予備的検討、第16回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
  - 36) 高橋秀俊、岩瀬真生、レオニデスカヌエト、安田由華、大井一高、福本素由己、井池直美、池澤浩二、疇地道代、栗本龍、中鉢貴行、石井良平、吉田哲彦、数井裕光、橋本亮太、武田雅俊、Prepulse Inhibition と Schizotypal Personality との関連について、第16回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
  - 37) 大井一高、橋本亮太、安田由華、井池直美、高橋秀俊、森原剛史、石井良平、田上真次、岩瀬真生、大河内正康、紙野晃人、数井裕光、田中稔久、工藤喬、武田雅俊、TBP 遺伝子における CAG リピート長と統合失調症発症のリスクおよび前頭葉機能との関連、第16回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
  - 38) 橋本亮太、大井一高、須貝文宣、安田由華、田上真次、高村明孝、森原剛史、大河内正康、田中稔久、工藤喬、佐古田三郎、武田雅俊、精神障害に続発した遺伝性脊髄小脳変性症の2例、第16回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
  - 39) 中山泰亮、大河内正康、田上真次、児玉高志、柳田寛太、辰巳真一、森康治、谷向仁、橋本亮太、森原剛史、田中稔久、工藤喬、武田雅俊、Wnt シグナル経路に關与する新規 presenilin 様タンパク質の探索、第16回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
  - 40) 辰巳真一、大河内正康、田上真次、柳田寛太、中山泰亮、児玉高志、森康治、田中稔久、橋本亮太、森原剛史、谷向仁、工藤喬、武田雅俊、培養細胞における膜貫通型 NRG1 の段階的タンパク分解によって産生される A $\beta$  様ペプチドの同定、第16回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
  - 41) 児玉高志、大河内正康、田上真次、中山泰亮、柳田寛太、辰巳真一、森康治、谷向仁、橋本亮太、森原剛史、田中稔久、工藤喬、武田雅俊、LC/MS/MS を用いた脳脊髄液及び末梢血中での APL1 $\beta$  の同定と定量、第16回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
  - 42) 柳田寛太、大河内正康、田上真次、中山泰亮、児玉高志、西富晃平、姜経緯、森康治、辰巳真一、数井裕光、田中稔久、森原剛史、橋本亮太、工藤喬、武田雅俊、APLP1 由来の A $\beta$  様ペプチド APL1 $\beta$  28 は中枢神経における A $\beta$  42 産生の代替マーカーである、第16回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
  - 43) 岩瀬真生、疇地道代、池澤浩二、石井良平、高橋秀俊、中鉢貴行、レオニデスカヌエト、栗本龍、数井裕光、福本素由己、井池直美、大井一高、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、近赤外分光法による組織酸素化指標を用いた統合失調症の前頭低活性の検討、第16回



- 日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 44) 高村明孝、橋本亮太、大井一高、安田由華、福本素由己、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、山森英長、紙野晃人、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、AKT1 遺伝子多型と注意機能の関連、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(10.31), 2009.
- 45) 疇地道代、岩瀬真生、池澤浩二、レオニデスカヌエト、高橋秀俊、中鉢貴行、石井良平、高村明孝、井池直美、福本素由己、大井一高、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、NIRS を用いた大うつ病性障害の前頭葉機能と局所脳血流量変化の検討、第 16 回日本未病システム学会、大阪、10.31-11.1(11.1), 2009.
- 46) 池澤浩二、石井良平、岩瀬真生、栗本龍、カヌエトレオニデス、高橋秀俊、中鉢貴行、疇地道代、大井一高、福本素由己、高村明孝、安田由華、井池直美、高屋雅彦、数井裕光、橋本亮太、吉峰俊樹、武田雅俊、統合失調症患者の作業記憶課題時における脳磁場活動変化に関する検討、第 39 回日本臨床神経生理学会学術大会、北九州、11.18-20(19), 2009.
- 47) 岩瀬真生、疇地道代、池澤浩二、石井良平、高橋秀俊、中鉢貴行、カヌエトレオニデス、栗本龍、数井裕光、福本素由己、井池直美、大井一高、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、2 ch-NIRS による前頭葉課題施行中の酸化ヘモグロビン濃度の賦活曲線特性- 統合失調症と健常者の比較、第 39 回日本臨床神経生理学会学術大会、北九州、11.18-20(18), 2009.
- 48) Hashimoto R, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Takamura H, Yamamori H, Takahashi H, Takao K, Miyakawa T, Ishii R, Iwase M, Kazui H, Takeda M. New approach to elucidate human brain function and its molecular basis: Human Brain Phenotype Consortium, 第 32 回日本神経科学大会、名古屋、9.16-18, 2009.
- 49) Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Takahashi H, Iike N, Iwase M, Kamino K, Kazui H, Takamura H, Fukumoto M, Yamamori H, Yamada K, Numata S, Ikeda M, Kudo T, Ueno S, Yoshikawa T, Ohmori T, Iwata N, Ozaki N, Takeda M. Promoter variant in the Chitinase 3-like 1 gene is associated with risk for schizophrenia and personality trait, 第 32 回日本神経科学大会、名古屋、9.16-18(16), 2009.
- 50) Takamura H, Hashimoto R, Shintani N, Haba R, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Yamamori H, Hashimoto H, Baba A, Takeda M. Behavioral analysis of transgenic mouse overexpressing dysbindin-1, a susceptibility gene for schizophrenia, 第 32 回日本神経科学大会、名古屋、9.16-18(16), 2009.
- 51) Iwase M, Azechi M, Ikezawa K, Ishii R, Leonides C, Kurimoto R, Takahashi H, Nakahachi T, Kazui H, Fukumoto M, Iike N, Ohi K, Yasuda Y, Hashimoto R, Takeda M. Hypofrontality in schizophrenia detected by the measurement of tissue oxygenation index using NIRS, 第 32 回日本神経科学大会、名古屋、9.16-18(18), 2009.
- 52) Hashimoto R, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Takamura H, Yamamori H, Takahashi H, Takao K, Miyakawa T, Ishii R, Iwase M, Kazui H, Takeda M. New approach to elucidate human brain function and its molecular basis: Human Brain Phenotype Consortium. 第 4 回 MCCS-Asia シンポジウム、名古屋、9.15, 2009.
- 53) 橋本亮太、森本一成、座長、The 4<sup>th</sup> meeting “Consider the Ability of Discharged Patients”、大阪、9.9, 2009.
- 54) 橋本亮太、統合失調症の遺伝子解析研究の現状と展望、平成 21 年度第 2 回 (社) 大阪精神科診療所協会学術研究会、9.5, 2009.
- 55) 橋本亮太、安田由華、大井一高、福本素由己、高村明孝、山森英長、高橋秀俊、高雄啓三、宮川剛、岩瀬真生、石井良平、数井裕光、武田雅俊、ヒトにおける脳表現型の分子機構の解明: ヒト脳表現型コンソーシアムについて、統合脳 5 領域「平成 21 年度 夏の合同班会議」、札幌、8.9-12(10), 2009.
- 56) 宮田信吾、橋本亮太、嶽本香菜、吉川景子、遠山正彌、精神疾患発症機構への micro RNA

- の関与、日本自立神経学会総会、和歌山、11.5-6(5), 2009.
- 57) 児玉高志、大河内正康、田上真次、柳田寛太、中山泰亮、辰巳真一、森康治、谷向仁、橋本亮太、森原剛史、田中稔久、工藤喬、武田雅俊、微量脳内ペプチドリストの作成、第28回日本認知症学会学術集会 11、仙台、11.20-21(20), 2009.
- 58) 辰巳真一、大河内正康、田上真次、Willem Michael, Munich Deu、柳田寛太、中山泰亮、児玉高志、森康治、Fleck Daniel、田中稔久、橋本亮太、森原剛史、谷向仁、工藤喬、武田雅俊、プレセニン $\gamma$  セクレターゼによるニューレグリン-1の蛋白質分解の解析、第28回日本認知症学会学術集会、仙台、11.20-21(20), 2009.
- 59) 橋本亮太、安田由華、大井一高、福本素由己、高橋秀俊、高村明孝、山森英長、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、阪大病院神経科・精神科における「統合失調症専門外来」について、第6回大阪南部精神科症例検討会、大阪、7.30, 2009.
- 60) 中島淑貴、橋本亮太、武田雅俊、三十五年目に病識の出現した統合失調症の一例、第105回近畿精神神経学会、大阪、7.18, 2009.
- 61) 橋本亮太、安田由華、大井一高、福本素由己、高橋秀俊、高村明孝、山森英長、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、阪大病院神経科・精神科における「統合失調症専門外来」について、第6回大阪中央精神科症例検討会、大阪、7.8, 2009.
- 62) 宮田信吾、橋本亮太、遠山正彌、遠山正彌、micro RNAによる神経細胞成熟化機構の解析、第11回RNAミーティング(第11回日本RNA学会年会)、新潟、7.27-29(27), 2009.
- 63) Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Takamura H, Yamamori H, Takeda M, シンポジウム：精神・神経・筋疾患のトランスレーショナルリサーチ、「統合失調症とディスバイオンジン」、第52回日本神経化学学会大会、伊香保、6.22-24(24), 2009.
- 64) 橋本亮太、辻省次、座長、シンポジウム：精神・神経・筋疾患のトランスレーショナルリサーチ、第52回日本神経化学学会大会、伊香保、6.22-24(24), 2009.
- 65) 橋本亮太、安田由華、大井一高、福本素己、高村明孝、高橋秀俊、山森英長、武田雅俊、日本生物精神医学会合同シンポジウム：中間表現型を用いた精神疾患脆弱性遺伝子の同定、第52回日本神経化学学会大会、伊香保、6.22-24(23), 2009.
- 66) Yasuda Y, Hashimoto R, Ohi K, Takamura H, Fukumoto M, Takahashi, Yoshida T, Iike N, Yamamori H, Morihara T, Tagami S, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Kamino K, Ishii R, Iwase M, Kazui H, Takeda M. A genetic variation of the KIBRA gene is associated with memory performance in Japanese healthy subjects. 第52回日本神経化学学会(伊香保)大会、第52回日本神経化学学会大会、伊香保、6.22-24(23), 2009.
- 67) 橋本亮太、安田由華、西村章、山森英長、大井一高、福本素由己、高村明孝、高橋秀俊、毛利育子、伊藤彰、谷池雅子、松本直通、武田雅俊、広汎性発達障害の遺伝子研究の到達点、日本脳科学学会、06.12-13(13), 2009.
- 68) 安田由華、橋本亮太、大井一高、高村明孝、福本素己、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、山森英長、紙野晃人、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、Kibra 遺伝子の遺伝子多型と日本人における記憶の関連について、日本脳科学学会、06.12-13(13), 2009.
- 69) 池澤浩二、石井良平、栗本龍、Leonides Canuet、岩瀬真生、高橋秀俊、中鉢貴行、疇地道代、大井一高、福本素由己、高村明孝、安田由華、高屋雅彦、数井裕光、橋本亮太、吉峰俊樹、武田雅俊、統合失調症の安静開閉眼時における律動脳磁場活動変化の検討、第24回日本生体磁気学会、金沢、5.28-29(28), 2009.
- 70) 匹田貴夫、田谷真一郎、藤野泰孝、橋本亮太、貝淵弘三、統合失調症関連蛋白質 dysbindin の新規結合パートナーのプロテオーム解析による解明(Proteomic analysis reveals novel binding partners of dysbindin, a schizophrenia-related protein)(英語)(会議録)、第61回日本細胞生物学会大会、名古屋、6.2-4(2), 2009.
- 71) 橋本亮太、安田由華、西村章、山森英長、大井一高、福本素由己、高村明孝、高橋秀俊、毛利育子、伊藤彰、谷池雅子、松本直通、武田雅俊、シンポジウム：広汎性発達障害の遺

- 伝子研究はどこまで到達したか?、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25(23), 2009.
- 72) 橋本亮太、糸原重美、座長、一般口演「動物モデル」、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25(23), 2009.
- 73) 橋本亮太、高雄啓三、服部聡子、室谷知孝、遠山桂子、中西和男、松崎伸介、石塚智子、熊本奈都子、高村明孝、大井一高、福本素由己、山森英長、安田由華、遠山正彌、大和谷厚、功刀浩、宮川剛、武田雅俊、統合失調症脆弱性遺伝子ディスバインジンと記憶との関連: ヒトと動物モデルの表現型の検討、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25, 2009.
- 74) 大井一高、橋本亮太、安田由華、高村明孝、福本素由己、山森英長、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、岩瀬真生、紙野晃人、石井良平、数井裕光、疇地道代、池澤浩二、谷向仁、田上真次、森原剛史、大河内正康、沼田周助、池田匡志、上野修一、田中稔久、工藤喬、大森哲郎、岩田仲生、尾崎紀夫、武田雅俊、CHI3L1 遺伝子プロモーター領域多型と統合失調症のリスク及び性格傾向の関連、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25(24), 2009.
- 75) 福本素由己、橋本亮太、安田由華、大井一高、高橋秀俊、山森英長、高村明孝、井池直美、畦地道代、池澤浩二、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、統合失調症における Remission の研究、第31回日本生物学的精神神経学会、京都、4.23-25(24), 2009.
- 76) 安田由華、橋本亮太、大井一高、高村明孝、福本素由己、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、山森英長、紙野晃人、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、KIBRA 遺伝子の遺伝子多型と日本人統合失調症患者における記憶の関連について、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25(24), 2009.
- 77) 畦地道代、岩瀬真生、池澤浩二、Canuet Leonides、栗本龍、高橋秀俊、中鉢貴行、石井良平、井池直美、福本素由己、大井一高、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、NIRS を用いた大うつ病性障害の前頭葉機能と局所脳血流変化の検討、第31回日本生物学的精神医学会、京都、4.23-25(24), 2009.
- 78) 橋本亮太、安田由華、武田雅俊、子どもの『精神障害』への支援、大阪府学校保健会養護教諭部会講演会、大阪、3.5, 2009.
- 79) 池澤浩二、石井良平、栗本龍、Leonides Canuet、岩瀬真生、高橋秀俊、中鉢貴行、疇地道代、大井一高、福本素由己、高村明孝、安田由華、吉田哲彦、高屋雅彦、数井裕光、橋本亮太、吉峰俊樹、武田雅俊、統合失調症患者の安静開閉眼時における律動脳磁場活動変化の検討、第31回 Fm $\theta$  研究会、大阪、2.28, 2009.
- 80) 木村宏明、橋本亮太、武田雅俊、アリピプラゾールが有効であった難治性統合失調症の一例、第104回近畿精神神経学会、大阪、2.14, 2009.
- 81) 欠田恭輔、安田由華、橋本亮太、福本素由己、武田雅俊、神経性食思不振症様の症状を呈した統合失調症の一例、第104回近畿精神神経学会、大阪、2.14, 2009.
- 82) 橋本亮太、安田由華、大井一高、吉田哲彦、福本素由己、高村明孝、高橋秀俊、井池直美、工藤喬、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、シンポジウム: 統合失調症の未病と予防「統合失調症未病と広汎性発達障害との類似点と相違点」、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 83) 岩瀬真生、石井良平、高橋秀俊、疇地道代、池澤浩二、Canuet Leonides、栗本龍、中鉢貴行、橋本亮太、安田由華、数井裕光、武田雅俊、シンポジウム: 統合失調症の軽症化「生理的マーカーによる軽症化の検出は可能か?」日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 84) 数井裕光、木藤友実子、高屋雅彦、徳永博正、安田由華、橋本亮太、岩瀬真生、石井良平、森原剛史、田上真次、田中稔久、工藤喬、武田雅俊、シンポジウム: 高齢化する統合失調症への対応「高齢統合失調症と認知症—認知機能障害の観点からの鑑別—」、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 85) 大井一高、橋本亮太、安田由華、高村明孝、高橋秀俊、岩瀬真生、紙野晃人、数井裕光、沼田周助、上野修一、岩田仲生、尾崎紀夫、武田雅俊、CHI3L1 遺伝子プロモーター領域多型と統合失調症のリスク及び性格傾向の関連、

- 日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 86) 福本素由己、橋本亮太、安田由華、大井一高、高橋秀俊、山森英長、高村明孝、井池直美、畦地道代、池澤浩二、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、統合失調症における Remission の研究、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 87) 池澤浩二、石井良平、栗本龍、Canuet Leonides、岩瀬真生、高橋秀俊、中鉢貴行、疇地道代、高屋雅彦、数井裕光、橋本亮太、吉峰俊樹、武田雅俊、統合失調症患者における安静開閉眼時の律動脳磁場活動の変化に関する検討、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 88) 高橋秀俊、岩瀬真生、レオニデスカヌエト、安田由華、大井一高、福本素由己、井池直美、池澤浩二、疇地道代、栗本龍、中鉢貴行、石井良平、吉田哲彦、数井裕光、橋本亮太、武田雅俊、健常者における聴覚性驚愕反射の Prepulse Inhibition と Schizotypal Personality との関連について、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 89) 長谷川千洋、吉田哲彦、橋本亮太、井池直美、喜多村由里、岩瀬真生、数井裕光、博野信次、山鳥重、武田雅俊、WMS-R 論理記憶課題における統合失調症の文章記憶の検討、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 90) 疇地道代、岩瀬真生、池澤浩二、Canuet Leonides、栗本龍、高橋秀俊、中鉢貴行、石井良平、福本素由己、井池直美、大井一高、安田由華、数井裕光、橋本亮太、武田雅俊、近赤外線スペクトロスコピー (NIRS) を用いた統合失調症患者と健常対象者との正判別率、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 91) 池澤浩二、岩瀬真生、疇地道代、石井良平、大井一高、安田由華、井池直美、栗本龍、Canuet Leonides、高橋秀俊、中鉢貴行、橋本亮太、武田雅俊、近赤外線スペクトロスコピーを用いた統合失調症患者における前頭葉機能障害と局所脳血液量変化の検討、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 92) 岩瀬真生、疇地道代、池澤浩二、石井良平、Canuet Leonides、栗本龍、高橋秀俊、中鉢貴行、数井裕光、福本素由己、井池直美、大井一高、安田由華、橋本亮太、武田雅俊、NIRS による組織酸素化指標を用いた統合失調症の前頭低活性の検討、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 93) 栗本龍、石井良平、池澤浩二、Canuet Leonides、岩瀬真生、疇地道代、高橋秀俊、中鉢貴行、福本素由己、大井一高、井池直美、安田由華、橋本亮太、吉峰俊樹、武田雅俊、統合失調症における記憶課題時の脳磁場活動の変化、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 94) 関山隆史、岩瀬真生、高橋秀俊、中鉢貴行、高橋清武、疇地道代、池澤浩二、栗本龍、Canuet Leonides、吉田哲彦、橋本亮太、石井良平、武田雅俊、慢性統合失調症患者における情動顔および中性顔の認知の特徴、その社会機能との関連、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(30), 2009.
- 95) 橋本亮太、服部聡子、室谷知孝、松崎伸介、石塚智子、熊本奈都子、高村明孝、大井一高、安田由華、遠山正彌、大和谷厚、功刀浩、武田雅俊、統合失調症脆弱性遺伝子ディスプレイエンジン欠損マウスの行動解析、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 96) 安田由華、橋本亮太、大井一高、高村明孝、福本素由己、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、紙野晃人、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、KIBRA 遺伝子の遺伝子多型と日本人統合失調症患者における記憶の関連について、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 97) 高雄啓三、遠山桂子、中西和男、服部聡子、高村明孝、武田雅俊、宮川剛、橋本亮太、Impaired long-term memory retention and working memory in sdy mutant mice with a deletion in Dtnbpl, a susceptibility gene for schizophrenia、日本統合失調症学会第4回大会、大阪、1.30-31(31), 2009.
- 98) 高村明孝、橋本亮太、大井一高、安田由華、福本素由己、高橋秀俊、吉田哲彦、井池直美、紙野晃人、石井良平、岩瀬真生、数井裕光、武田雅俊、統合失調症脆弱性遺伝子 AKT1 と